

市民協働推進課

■第15回男女共同参画推進市民会議録

日時	平成20年9月29日(月) 午後7時～9時
場所	武蔵野商工会館第1・2会議室
出席者 (敬称略)	委員 岩城末子、大橋仁、小野公一、菅野昭彦、工藤阿貴、千田有紀、高田素子、林朋子、三上かおり、吉川良子 邑上守正市長 事務局 男女共同参画担当職員、男女共同参画推進市民会議ワーキングスタッフ 傍聴者 5名
議題	1 市長との懇談 2 各担当より報告書案の発表 3 その他
議事要旨	1 市長との懇談 (市長との懇談より各委員からの意見) ■ 男性が地域参加をするためには、参加する動機になるようなことを出していく必要があるのではないかと。 ■ 動機づけよりも、参加できる場所などをたくさん用意することが重要ではないだろうか。 ■ 地域内の企業の関わりについては今後の課題となるだろう。企業内託児所への支援などの形では実行できるのではないかと。 ■ むさしのヒューマン・ネットワークセンターについては、位置づけを明確にしてほしい。 ■ 市が男女共同参画を進めていくための基本理念を明確にするためにも、男女共同参画条例は必要だと。 ■ 相談窓口は、支援される側に分かりやすく駆け込みやすい敷居の低

- い窓口であるとともに、庁内外の連携体制を整備することが重要である。
- 女性の継続就労に対する支援は少子化対策にもつながる。
 - 武蔵野市に住みたいと若い世代にアピールできる施策をお願いしたい。
 - 市が考える人権を、マイノリティーにまで視野を広げていくべきではないか。
 - さまざまな課題を解決していくためにも市民会議を常設し、計画を充実していけるシステムづくりが必要だ。

2 報告書案の発表

・基本目標Ⅳ 男女共同参画計画の推進体制の整備について

(各委員からの意見)

- 審議会などの構成については、男女の偏りがないようにポジティブ・アクションを取り入れたい。
- 男女共同参画推進の総合的な整備のためにも、実効力のある条例の制定は必要だ。
- 男女共同参画を市内事業所等に働きかけていくのならば、まず市が事業所としてモデルになっていく必要がある。
- 第三者評価機関としての市民会議を常設化したい。
- 市の男女共同参画推進事業の進捗状況に対して、客観的な事業評価の導入が必要だ。

(次回以降のスケジュール)

- ・ 小委員会で報告書をまとめる作業を行う。
- ・ 全体案について、全体での意見を調整する。
- ・ 市民意識調査の冊子案について意見を伺う。

<次回の市民会議>

基本目標ごとにまとめていただいた報告書案について、議論していただく。

次回

平成 20 年 10 月 8 日(水) 午後 7 時～
武蔵野商工会館第1・2会議室